

## 『ZAITEN』葛西名誉会長の実態！シリーズ⑩

# 残土の山が崩れないという**確証は？** リニア稼働の**経済効果を過大に見積**

静岡県では最北部の南アルプスを利ニアは地下トンネル走行するが、その掘削工事により約360万立米の残土が排出される。JR東海はそれを、大井川源流部のつばくろ燕沢という河原に積むと計画している。高さ70㍎、幅300㍎、長さ500㍎。

…（略）…（JR東海と有識者とが協議する「中央新幹線建設事業影響評価協議会」で）、地盤工学が専門の安田進・東京電機大学副学長が「土石流の場合、大きな岩がドーンと落ちてくると、**（残土の山の）盛土がえぐられる。その対策は？崩れないという確証はあるのか？**」と質問したところ、JR東海は「どんな災害にでも崩れないというのは非科学的です」と返した。そして「説明させていただいたのは土砂流出のシミュレーション結果ですが、**ご理解賜ったということですのでよろしいわけですね**」と協議に幕を引こうとした。

…（略）…閉会后、増沢（静岡大学理学部特任）教授は「残土置き場が崩れた場合のシミュレーションを想定していない以上、**私は納得できない。最終的には静岡市とJR東海の合意で方針が決まりますが、合意に必要な材料が出るまで協議は続けます**」と語った。

JR東海が主張するリニア推進の主な理由は以下の二つだ。①首都圏を結ぶ大動脈の二重系化で東海大地震等の災害に備える。②東京、名古屋、大阪の三大都市圏が1時間の高速移動でつながることによって7000万人の巨大首都圏が誕生し経済活性につながる。

①は理解できなくもないが、なぜ巨額が必要なリニア方式なのかの疑問は残る。そして、②をそのまま信じる人はどれだけいるだろう。リニアが走る沿線自治体などは、**リニア稼働の経済効果を過大に見積もり**、当のJR東海の資料にも遠距離通勤や観光客誘致などの言葉は並ぶが、**具体的な経済効果の数値は示されていない**。